

8. 人と自然との触れ合いの活動の場

(1) 調査

(1)-1 調査項目

人と自然との触れ合いの活動の場は、以下の内容について調査を行った。

- ・ 主要な人と自然との触れ合いの活動の場の分布、利用の状況及び利用環境の状況

(1)-2 調査の手法

人と自然との触れ合いの活動の場に関する調査方法を表 6.8.1-1 に示す。

表 6.8.1-1 人と自然との触れ合いの活動の場に関する調査方法

項目	調査方法
主要な人と自然との触れ合いの活動の場の分布、利用の状況及び利用環境の状況	【文献その他の資料調査】 観光関連資料、自治体資料等により、対象事業実施区域及び周辺の主要な人と自然との触れ合いの活動の場の利用状況等について整理した。 【現地調査】 主要な人と自然との触れ合いの活動の場の利用状況及び利用環境の様子を写真撮影及び踏査により把握した。

(1)-3 調査地域及び調査地点

調査地域は主要な人と自然との触れ合い活動の場の規模、誘致圏、アクセスルート等を考慮し、対象事業実施区域端部から3km程度の範囲とした。調査地点は、主要な人と自然との触れ合い活動の場への影響を考慮し、人と自然との触れ合いの活動の場の状況に係る以下の資料の収集及び富谷市産業観光課への聞き取り調査により選定した。

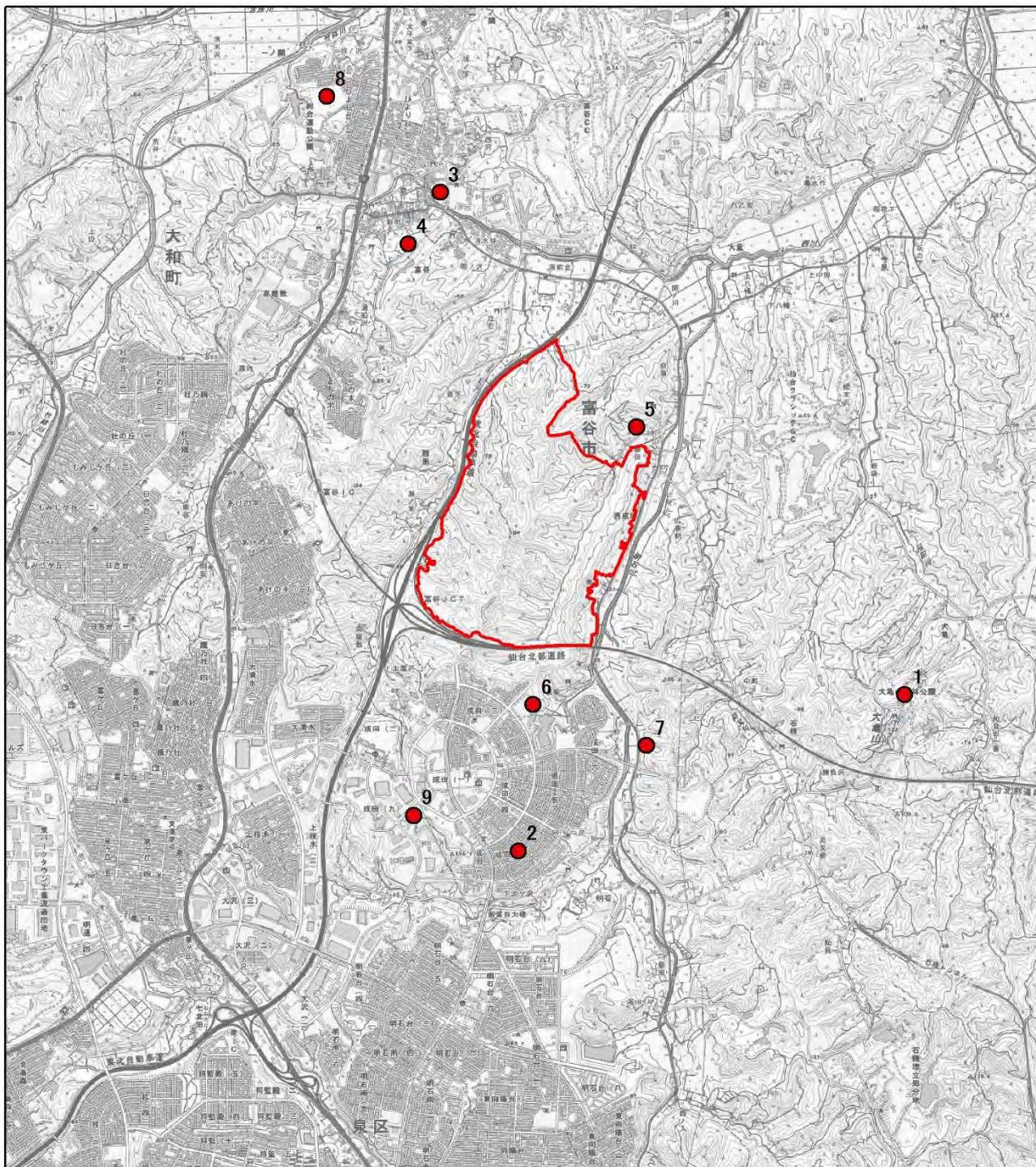
- ・日本観光協会公式Webサイト <https://www.nihon-kankou.or.jp/list/>
- ・富谷市公式Webサイト <https://www.tomiya-city.miyagi.jp/>

また、富谷市への聞き取り調査により抽出した。

主要な人と自然との触れ合いの活動の場の調査地点を表 6.8.1-2 及び図 6.8.1-1 に示す。

表 6.8.1-2 主要な人と自然との触れ合いの活動の場の調査地点

No.	地点名
1	大亀山森林公園
2	せせらぎ緑道
3	しんまち公園
4	富ヶ岡公園
5	西成田コミュニティセンター
6	成田東公園
7	大黒澤苑
8	富谷市総合運動公園
9	成田西公園



凡例



対象事業実施区域

● 主要な人と自然との触れ合いの活動の場



図 6.8.1-1 人と自然との触れ合いの活動の場の調査地点

(1)-4 調査期間

人と自然との触れ合いの活動の場の調査実施日を表 6.8.1-3 に示す。

表 6.8.1-3 人と自然との触れ合い活動の場の調査実施日

調査時期	調査日程
冬季（落葉期）	令和5年1月15日（日）～令和5年1月18日（水）
春季（展葉期）	令和5年4月17日（月）～令和5年4月20日（木）

(1)-5 調査結果

人と自然との触れ合いの活動の場の調査結果を表 6.8.1-4～表 6.8.1-12 に示す。

表 6.8.1-4 主要な人と自然との触れ合いの活動の場の調査結果 (①大亀山森林公園)

名称	大亀山森林公園	
概況	<対象事業実施区域までの距離> 約 2.0 km <対象事業実施区域の方向> 北西 <対象事業実施区域の可視・不可視>可視 (展望台から)	
地点の概要	・自然を楽しめる遊歩道やアスレチック、遊具のほか、バーベキューができる炊事施設もある。	
利用特性	・開館期間は4月1日～11月30日である。富谷市民だけでなく、仙台市等、市外からの利用もある。	
地点の様子	(冬季) 12～3月まで冬季閉鎖期間 (春季) 利用者は確認することが出来なかった。	
調査日時	(冬季) - (春季) 令和5年4月17日(月)11時30分	
状況写真	(冬季は閉鎖期間)	 <p>春季の様子</p>

表 6.8.1-5 主要な人と自然との触れ合いの活動の場の調査結果 (②せせらぎ緑道)

名称	せせらぎ緑道	
概況	<対象事業実施区域までの距離> 約 0.8~1.5 km <対象事業実施区域の方向> 北 <対象事業実施区域の可視・不可視> 不可視	
地点の概要	・成田地区の住宅地内にある水路沿いの緑道。	
利用特性	・主に地域の住民が利用する場所であると考えられる。	
地点の様子	(冬季) 利用者は確認することが出来なかった。水路の水は抜かれていた。 (春季) 犬の散歩での利用がみられた。緑道の途中にある成田五丁目公園は児童で賑わっていた。	
調査日時	(冬季) 令和 5 年 1 月 15 日(日)15 時 (春季) 令和 5 年 4 月 17 日(月)16 時 30 分	
状況写真	 <p>冬季の様子</p>	 <p>春季の様子</p>

表 6.8.1-6 主要な人と自然との触れ合いの活動の場の調査結果 (③しんまち公園)

名称	しんまち公園	
概況	<対象事業実施区域までの距離> 約 1.2 km <対象事業実施区域の方向> 南 <対象事業実施区域の可視・不可視> 不可視	
地点の概要	・富谷市役所や富谷市立富谷小学校、富谷市富谷中央公民館など市の拠点となり人の集まりやすい施設の近くに位置する公園である。	
利用特性	・地域のお祭りやイベントの場として利用されることが多い。	
地点の様子	(冬季) 散歩の利用が確認された。 (春季) 利用者はみられなかったが、時間、曜日によっては地域住民等による利用があると考えられる。	
調査日時	(冬季) 令和 5 年 1 月 17 日(火)11 時 (春季) 令和 5 年 4 月 18 日(火)10 時 30 分	
状況写真	 <p>冬季の様子</p>	 <p>春季の様子</p>

表 6.8.1-7 主要な人と自然との触れ合いの活動の場の調査結果 (④富ヶ岡公園)

名称	富ヶ岡公園	
概況	<対象事業実施区域までの距離> 約 1.0 km <対象事業実施区域の方向> 南 <対象事業実施区域の可視・不可視> 不可視	
地点の概要	・富谷宿のあったしんまち通り南側の丘陵地帯にある公園で、松や桜等が植えられ、バードウォッチングや季節の植物を楽しむことが出来る。 ・西側に眺望が開けており、七ツ森や泉ヶ岳、船形山、栗駒山等を望むことが出来る。	
利用特性	・丘になっており、野鳥の森や季節の植物を楽しめる自然観察のスポットである。	
地点の様子	(冬季) 利用者は確認することが出来なかった。 (春季) 散歩に訪れている数名のグループの利用が確認された。	
調査日時	(冬季) 令和5年1月17日(火)11時 (春季) 令和5年4月18日(火)11時	
状況写真	 <p style="text-align: center;">冬季の様子</p>	 <p style="text-align: center;">春季の様子</p>

表 6.8.1-8 主要な人と自然との触れ合いの活動の場の調査結果 (⑤西成田コミュニティセンター)

名称	西成田コミュニティセンター	
概況	<対象事業実施区域までの距離> 約 0.5 km <対象事業実施区域の方向> 南西 <対象事業実施区域の可視・不可視> 可視	
地点の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・富谷市の子供の自然学習やイベントの場である。また、令和4年4月に不登校特例校が開設された。 ・西成田コミュニティセンターには「おっちゃんの森（自然散策エリア）」があり、「サンびよんビオトープ」というビオトープが設けられている。「おっちゃんの森」では親子自然体験（自然ふれあい学校）が特定非営利活動法人宮城県森林インストラクター協会の運営で行われており、「サンびよんビオトープ」の整備も行われている。 	
利用特性	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民に広く利用されている。散策路があり、自然体験活動の場としての利用がある。 ・特定非営利活動法人宮城県森林インストラクター協会により、「自然ふれあい学校」という自然体験イベントが冬季を除き月1、2回、年間6～7回程度開催されている。 	
地点の様子	(冬季) 屋外の利用者は確認することが出来なかった。駐車場に3台の車が見られた。 (春季) 屋外の利用者は確認することが出来なかった。駐車場に9台の車が見られた。	
調査日時	(冬季) 令和5年1月15日(日)13時 (春季) 令和5年4月17日(月)12時	
状況写真	 <p>冬季の様子 (手前はサンびよんビオトープ)</p>	 <p>冬季の様子 (サンびよんビオトープ)</p>
	 <p>春季の様子 (西成田コミュニティセンター入口)</p>	 <p>春季の様子 (おっちゃんの森看板)</p>

表 6.8.1-9 主要な人と自然との触れ合いの活動の場の調査結果 (⑥成田東公園)

名称	成田東公園	
概況	<対象事業実施区域までの距離> 約 0.5 km <対象事業実施区域の方向> 北 <対象事業実施区域の可視・不可視> 可視	
地点の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・成田地区の住宅地に位置する公園であり、住宅地内の公園としては、市内では比較的規模が大きい公園である。草地の広場の他、屋外バスケットコートも整備されている。 ・令和 8 年 1 月まで北側で宅地開発の工事が行われている。 	
利用特性	<ul style="list-style-type: none"> ・主に近隣の住民が利用すると想定される。 	
地点の様子	(冬季) 子供達による利用が確認された。 (春季) 利用者は確認することが出来なかった。	
調査日時	(冬季) 令和 5 年 1 月 15 日(日)16 時 (春季) 令和 5 年 4 月 17 日(月)15 時 30 分	
状況写真	 <p>冬季の様子 (公園の北西端)</p>	 <p>春季の様子</p>

表 6.8.1-10 主要な人と自然との触れ合いの活動の場の調査結果 (⑦大黒澤苑)

名称	大黒澤苑	
概況	<対象事業実施区域までの距離> 約 0.8 km <対象事業実施区域の方向> 北西 <対象事業実施区域の可視・不可視> 不可視	
地点の概要	・庭園を備えた公民館であり、地域住民の交流の場となっている。	
利用特性	・公民館の利用だけでなく、庭園の散策などの利用もできる。	
地点の様子	(冬季) 屋外利用者は確認することが出来なかった。 (春季) 屋外利用者は確認することが出来なかった。	
調査日時	(冬季) 令和 5 年 1 月 15 日(日)15 時 (春季) 令和 5 年 4 月 18 日(火)15 時	
状況写真	 <p>冬季の様子</p>	 <p>春季の様子</p>

表 6.8.1-11 主要な人と自然との触れ合いの活動の場の調査結果 (⑧富谷市総合運動公園)

名称	富谷市総合運動公園	
概況	<対象事業実施区域までの距離> 約 2.0 km <対象事業実施区域の方向> 南東 <対象事業実施区域の可視・不可視> 不可視	
地点の概要	・市内で最も大きい総合施設の公園である。貸出施設利用には使用許可が必要である。	
利用特性	・スポーツセンター等の屋内施設やグラウンドの他、屋外緑地やレクリエーション広場等もあり、屋外利用もできる。	
地点の様子	(冬季) 屋外の利用者は確認することが出来なかった。 (春季) 屋外の利用者は確認することが出来なかった。	
調査日時	(冬季) 令和 5 年 1 月 17 日(火)12 時 (春季) 令和 5 年 4 月 18 日(火)11 時 30 分	
状況写真	 <p>冬季の様子</p>	 <p>春季の様子</p>

表 6.8.1-12 主要な人と自然との触れ合いの活動の場の調査結果 (⑨成田西公園)

名称	成田西公園	
概況	<対象事業実施区域までの距離> 約 1.3 km <対象事業実施区域の方向> 北 <対象事業実施区域の可視・不可視> 不可視	
地点の概要	・商業施設が集中するエリアに位置する公園であり、草地の広場にベンチが整備されている。	
利用特性	・主に近隣の住民による利用が想定される。	
地点の様子	(冬季) 利用者は確認することが出来なかった。 (春季) 散歩に訪れている家族連れ 1 組の利用が確認された。	
調査日時	(冬季) 令和 5 年 1 月 17 日(火)16 時 (春季) 令和 5 年 4 月 18 日(火)14 時 30 分	
状況写真	 <p style="text-align: center;">冬季の様子</p>	 <p style="text-align: center;">春季の様子</p>

(2) 予測

(2)-1 予測項目

人と自然との触れ合いの活動の場の予測は、以下の影響要因について、主要な人と自然との触れ合いの活動の場の利用環境や利用動線の変化について行った。

[1] 造成等の工事による一時的な影響

[2] 敷地の存在・構造物の存在

(2)-2 予測の手法

事業計画の内容に基づき、主要な人と自然との触れ合いの活動の場の利用環境や利用動線への影響の程度について定性的に予測を行った。工事期間中の工事用車両の対象事業実施区域周辺の通行ルートを図 6.8.2-1 に示す。

(2)-3 予測地域及び予測地点

予測地域及び予測地点は、調査地域及び調査地点と同様とし、表 6.8.2-1 に示す地点とした。

表 6.8.2-1 人と自然との触れ合いの活動の場の予測地点

No.	地点名
1	大亀山森林公園
2	せせらぎ緑道
3	しんまち公園
4	富ヶ岡公園
5	西成田コミュニティセンター
6	成田東公園
7	大黒澤苑
8	富谷市総合運動公園
9	成田西公園

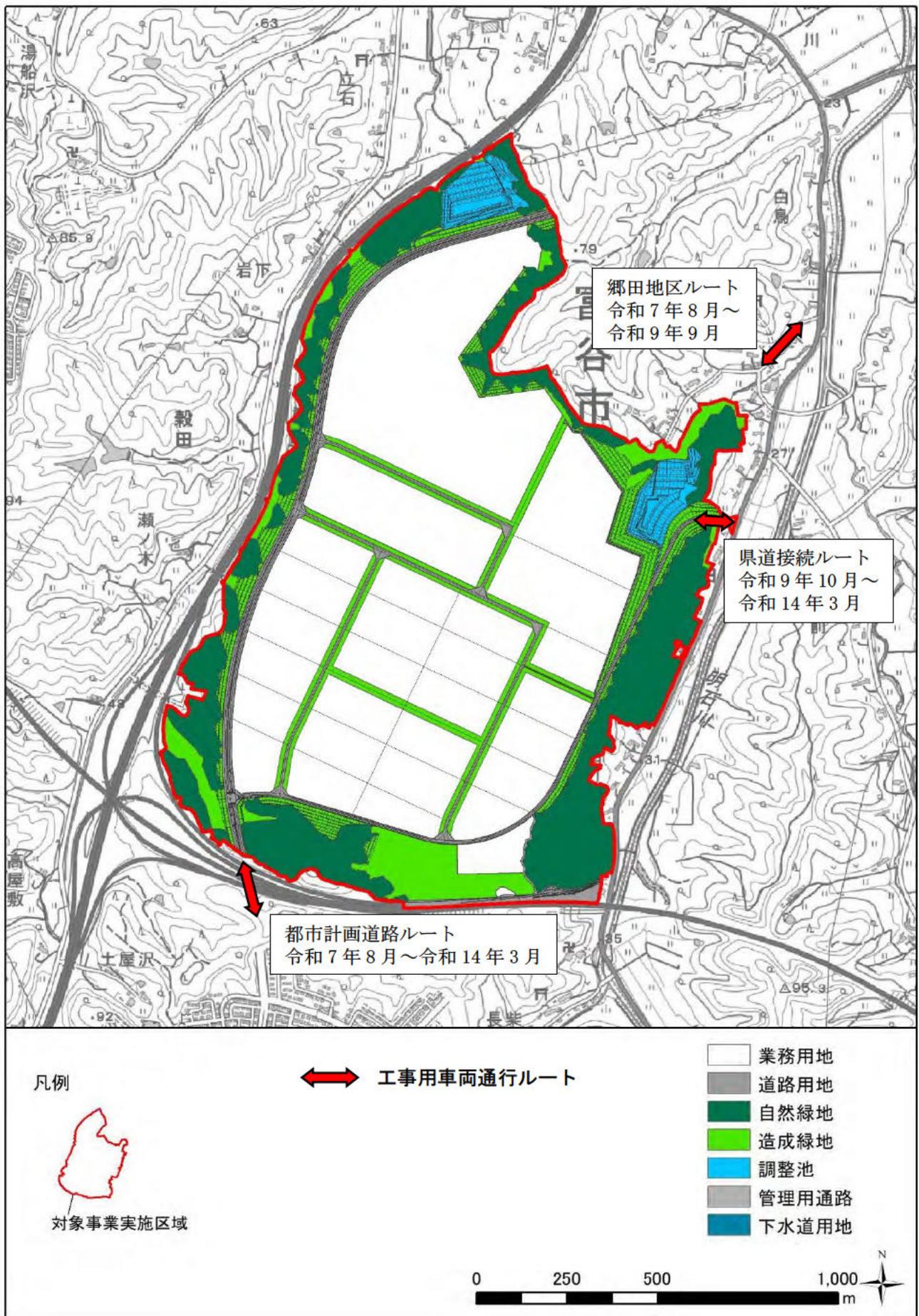


図 6.8.2-1 工事用車両通行ルート

(2)-4 予測対象時期

予測対象時期は、造成工事期間及び供用後とした。

(2)-5 予測結果

予測結果を表 6.8.2-2～表 6.8.2-10 に示す。

表 6.8.2-2 予測結果（大亀山森林公園）

予測地点 1		大亀山森林公園
予測項目	造成等の工事による一時的な影響	・ 工事中は、大亀山森林公園へのアクセス道路である市道石積大亀線は工事用車両等の主な走行ルートとは想定されず、利用動線への影響は発生しないと予測される。また、大亀山森林公園は、対象事業実施区域から約 2 km 離れており、工事中の騒音等の影響も予測されない。したがって、利用環境やアクセス性は損なわれないと予測される。
	敷地の存在 構造物の存在	・ 大亀山森林公園は、対象事業実施区域から約 2 km 離れており、直接的な改変等による影響は無い。また、供用後の敷地や構造物の存在による利用環境や利用動線への影響も発生しないと予測される。

表 6.8.2-3 予測結果（せせらぎ緑道）

予測地点 2		せせらぎ緑道
予測項目	造成等の工事による一時的な影響	・ せせらぎ緑道には、利用者用の駐車場は設置されておらず、主に徒歩や自転車の利用と考えられることから、利用動線への影響は発生しないと予測される。また、せせらぎ緑道は、対象事業実施区域から最短でも約 0.8 km 離れており、工事中の騒音等の影響も予測されない。したがって、利用環境やアクセス性は損なわれないと予測される。
	敷地の存在 構造物の存在	・ せせらぎ緑道は、対象事業実施区域から最短でも約 0.8 km 離れており、直接的な改変等による影響は無い。また、供用後の敷地や構造物の存在による利用環境や利用動線への影響も発生しないと予測される。

表 6.8.2-4 予測結果（しんまち公園）

予測地点 3		しんまち公園
予測項目	造成等の工事による一時的な影響	・工事中は、しんまち公園へのアクセス道路である市道学校前線は工事用車両等の主な走行ルートとは想定されず、利用動線への影響は発生しないと予測される。また、しんまち公園は、対象事業実施区域から約 1.2 km 離れており、工事中の騒音等の影響も予測されない。したがって、利用環境やアクセス性は損なわれないと予測される。
	敷地の存在 構造物の存在	・しんまち公園は、対象事業実施区域から約 1.2 km 離れており、直接的な改変等による影響は無い。また、供用後の敷地や構造物の存在による利用環境や利用動線への影響も発生しないと予測される。

表 6.8.2-5 予測結果（富ヶ丘公園）

予測地点 4		富ヶ丘公園
予測項目	造成等の工事による一時的な影響	・工事中は、富ヶ丘公園へのアクセス道路である市道富ヶ丘公園線は工事用車両等の主な走行ルートとは想定されず、また、富ヶ丘公園には利用者用の駐車場はないため、利用者は主に徒歩や自転車等でアクセスしていると考えられ、利用動線への影響は発生しないと予測される。また、富ヶ丘公園は、対象事業実施区域から約 1.0 km 離れており、工事中の騒音等の影響も予測されない。したがって、利用環境やアクセス性は損なわれないと予測される。
	敷地の存在 構造物の存在	・富ヶ丘公園は、対象事業実施区域から約 1.0 km 離れており、直接的な改変等による影響は無い。また、供用後の敷地や構造物の存在による利用環境や利用動線への影響も発生しないと予測される。

表 6.8.2-6 予測結果（西成田コミュニティセンター）

予測地点 5		西成田コミュニティセンター
予測項目	造成等の工事による一時的な影響	・ 工事中は、主要地方道仙台三本木線との接続ルートが完成するまでの期間（令和 7 年 8 月～令和 9 年 9 月想定）は、西成田コミュニティセンターへのアクセス道路である市道郷田線等を工事用車両等が走行することとなる。この期間は利用動線の交通量が増加するが、その台数は 12 台/日と想定される。また、西成田コミュニティセンターは対象事業実施区域より約 0.5 km 程度の場所にあるが、建設機械の稼働による騒音については、環境基準値（55dB）を下回ると予測される。
	敷地の存在 建造物の存在	・ 西成田コミュニティセンターは、対象事業実施区域から約 0.5 km 離れており、直接的な改変等による影響は無い。また、供用後の敷地や建造物の存在による利用環境や利用動線への影響も発生しないと予測される。

表 6.8.2-7 予測結果（成田東公園）

予測地点 6		成田東公園
予測項目	造成等の工事による一時的な影響	・ 工事中は、成田東公園へのアクセス道路である市道成田中環状線等は工事用車両等の主な走行ルートとは想定されず、利用動線への影響は発生しないと予測される。また、成田東公園は、対象事業実施区域から約 0.5 km 離れており、対象事業実施区域南側の残存緑地があることから騒音等の影響も予測されない。したがって、利用環境やアクセス性は損なわれないと予測される。
	敷地の存在 建造物の存在	・ 成田東公園は、対象事業実施区域から約 0.5 km 離れており、直接的な改変等による影響は無い。また、供用後の敷地や建造物の存在による利用環境や利用動線への影響も発生しないと予測される。

表 6.8.2-8 予測結果（大黒澤苑）

予測地点 7		大黒澤苑
予測項目	造成等の工事による一時的な影響	・ 工事中は、大黒澤苑へのアクセス道路である主要地方道仙台三本木線を工事用車両等が走行することとなり、その台数は 386 台/日と想定される。したがって、工事中は利用動線の交通量が増加する。また、大黒澤苑と対象事業実施区域は約 0.8 km 離れており、造成工事による影響はほとんどないと考えられる。工事用車両等の走行による騒音の影響についても、現況騒音レベルと変わらないと予測され、利用環境への影響もほとんどないと予測される。
	敷地の存在 構造物の存在	・ 大黒澤苑と対象事業実施区域は約 0.8 km 離れており、直接的な改変等による影響は無い。また、供用後の敷地や構造物の存在による利用環境や利用動線への影響も発生しないと予測される。

表 6.8.2-9 予測結果（富谷市総合運動公園）

予測地点 8		富谷市総合運動公園
予測項目	造成等の工事による一時的な影響	・ 工事中は、富谷市総合運動公園へのアクセス道路である市道総合運動公園線は工事用車両等の主な走行ルートとは想定されないため、利用動線への影響は発生しないと予測される。また、富谷市総合運動公園は、対象事業実施区域から約 1.0 km 離れており、工事中の騒音等の影響も予測されない。したがって、利用環境やアクセス性は損なわれないと予測される。
	敷地の存在 構造物の存在	・ 富谷市総合運動公園は、対象事業実施区域から約 1.0 km 離れており、直接的な改変等による影響は無い。また、供用後の敷地や構造物の存在による利用環境や利用動線への影響も発生しないと予測される。

表 6.8.2-10 予測結果（成田西公園）

予測地点 9		成田西公園
予測項目	造成等の工事による一時的な影響	・ 工事中は、成田西公園へのアクセス道路である市道成田環状 1 号線は工事用車両等の主な走行ルートとは想定されないため、利用動線への影響は発生しないと予測される。また、成田西公園は、対象事業実施区域から約 1.3 km 離れており、工事中の騒音等の影響も予測されない。したがって、利用環境やアクセス性は損なわれないと予測される。
	敷地の存在 構造物の存在	・ 成田西公園は、対象事業実施区域から約 1.3 km 離れており、直接的な改変等による影響は無い。また、供用後の敷地や構造物の存在による利用環境や利用動線への影響も発生しないと予測される。

(3) 環境保全措置

(3)-1 環境影響評価手続き以前の環境保全措置の検討経緯

工事用車両等の走行ルートは、主要な人と自然との触れ合いの活動の場の利用動線を出るだけ避けるよう配慮した。また、土地利用計画において、緩衝帯となるよう対象事業実施区域の周縁部に樹林を残すよう配慮した。

(3)-2 人と自然との触れ合いの活動の場に係る保全方針の検討

事業特性、人と自然との触れ合いの活動の場に係る地域特性、影響予測結果に基づき、環境保全措置の検討を行った。

工事中は、対象事業実施区域近傍の主要な人と自然との触れ合い活動の場において、工事車両の走行や騒音の増加による影響が予測された。これらの予測結果から、環境保全目標は「人と自然との触れ合いの活動の場に及ぼす影響が軽微であること」及び「人と自然との触れ合いの活動の場の利用に著しく影響を与えないこと」とし、事業実施による影響を低減する保全措置を検討した。

[1] 回避・低減に係る環境保全措置

環境保全措置に基づき、人と自然との触れ合いの活動の場への影響を低減するための保全措置を以下のとおり設定する。

- ・ 道路交通に渋滞等の影響が生じないように、要所に誘導員を設置する等、交通整理を適切に実施するとともに、特に工事中の影響が予測される西成田コミュニティセンターについては、利用者や施設関係者に工事情報等を知らせる。
- ・ 騒音対策として、低騒音型建設機械の使用、建設機械の稼働中に無理な負荷をかけない、不要時は建設機械のエンジン停止を実施する。
- ・ 工事用車両の走行に関しては、速度制限の遵守と安全走行を徹底する。
- ・ 目隠し等を設置することで、対象事業実施区域の近距離にある主要な人と自然との触れ合いの活動の場への影響低減に努める。
- ・ 動物、植物、生態系の環境保全措置としてビオトープの整備や隣接する樹林の整備等を行うこととしており、西成田コミュニティセンターの「サンピョンビオトープ」も整備の対象としている。他の対象事業実施区域内に整備するビオトープも含め、地域の自然との触れ合い活動での活用、連携について検討する。進出企業に対しても、その取組への参加を促す。

[2] 検討結果の検証

人と自然との触れ合いの活動の場に係る環境保全措置は、予測される影響を低減する施策であり、同時に騒音等及び動物、植物、生態系に対する環境保全措置と併せて行われるものである。

いずれも、事業者及び施行者の配慮により、実行可能な施策であり、また効果も期待できる環境保全措置であると判断される。

[3] 検討結果の整理

人と自然との触れ合い活動の場に係る環境保全措置の検討結果について表 6.8.3-1～表 6.8.3-3 に整理を行った。

表 6.8.3-1 人と自然との触れ合いの活動の場に係る環境保全措置検討結果の整理（施工業者）

実施者		施工業者
保全措置の内容	保全措置の種類	低減
	実施項目	交通整理等
	実施方法	道路交通に渋滞等の影響が生じないように、要所に誘導員を設置する等、交通整理を適切に実施するとともに、特に工事中にアクセス道路の交通量の増加が予測される西成田コミュニティセンターについては、利用者や施設関係者に工事情報等を知らせる。
	実施期間	工事中
	実施位置	公道から対象事業実施区域に出入りする箇所等、及び西成田コミュニティセンター
保全措置の効果及び変化		主要な人と自然との触れ合いの活動の場へのアクセス性の影響低減が期待できる。
不確実性の程度		環境保全措置の効果の程度に不確実性があることから、事後調査により効果の確認を行う。
副次的な環境影響		なし

表 6.8.3-2 人と自然との触れ合いの活動の場に係る環境保全措置検討結果の整理（施工業者）

実施者		施工業者
保全措置の内容	保全措置の種類	低減
	実施項目	騒音発生源レベル、外部への伝搬の低減、道路の安全確保
	実施方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 低振動型建設機械の使用 ・ 建設機械のアイドリングストップ、高負荷運転の回避 ・ 工事用車両の走行に関しては、速度制限の遵守と安全走行を徹底 ・ 目隠しの設置
	実施期間	工事中
	実施位置	対象事業実施区域全域及び周辺地域
保全措置の効果及び変化		騒音レベルの低減により、主要な人と自然との触れ合いの活動の場への騒音の影響の低減が期待できる。
不確実性の程度		環境保全措置の効果の程度に不確実性があることから、事後調査により効果の確認を行う。
副次的な環境影響		なし

表 6.8.3-3 人と自然との触れ合いの活動の場に係る環境保全措置検討結果の整理（事業者）

実施者		事業者
保全措置の内容	保全措置の種類	低減
	実施項目	ビオトープの活用等
	実施方法	地域の自然との触れ合い活動での活用、連携について検討する。進出企業に対しても、その取組への参加を促す。
	実施期間	供用後
	実施位置	整備するビオトープ及びその周辺域
保全措置の効果及び変化		地域の人と自然との触れ合いの活動の促進が期待できる。
不確実性の程度		環境保全措置の効果の程度に不確実性があることから、事後調査により効果の確認を行う。
副次的な環境影響		なし

(4) 評価

(4)-1 環境影響の回避・低減に係る評価

工事中の交通整理、騒音対策、安全走行等、また、供用後における整備するビオトープの地域の自然との触れ合い活動での活用、連携について検討し、地域の活動に寄与することにより、主要な人と自然との触れ合いの活動の場への事業による影響は、実行可能な範囲で低減が図られると評価する。

なお、環境保全措置の効果の程度に不確実性があることから、事後調査により効果の確認を行う。

(4)-2 国又は関係する地方公共団体が実施する環境の保全に関する施策との整合性に係る評価

[1] 国が実施する環境の保全に関する施策

国が実施する主要な人と自然との触れ合い活動の場に対する施策は、当該地域には存在しないため該当しない。

[2] 県が実施する環境の保全に関する施策

新・宮城の将来ビジョン(令和2年12月策定)の「政策推進の基本方向4 強靱で自然と調和した県土づくり」の「(7) 自然と人間が共存共栄する社会をつくる」に対して、実行可能な範囲で低減措置を講ずることにより整合すると評価する。

[3] 市町村が実施する環境の保全に関する施策

富谷市総合計画 後期基本計画(令和3年8月)の「4-1 土地利用」の施策目標「豊かな自然を守りバランスの取れたまちづくり」に対して、実行可能な範囲で低減措置を講ずることにより整合すると評価する。

(空白ページ)